

# 幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識 4

## — 九州 7 県調査結果 —

松 尾 智 則      古 賀 和 博      増 田      隆      永 渕 美香子  
櫻 井 裕 介      山 下 雅佳実      久 松      薫

## Kindergarten 'Consciousness' in Kindergarten Teaching practice-4 Within Kyushu's 7 prefectures

Tomonori Matsuo      Kazuhiro Koga      Takashi Masuda      Mikako Nagafuchi  
Yusuke Sakurai      Akemi Yamashita      Kaoru Hisamatsu

(2021年12月1日受理)

### 1. 本稿の位置づけと目的

本稿は、先に報告した「幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識」(注1)及び「幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識2 - 佐賀県・大分県調査 -」(注2)のフェースシート部分以外はほぼ同様の調査を長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県で行った第3次調査の結果を加えて九州全県の状況を報告するものである。

本稿の目的は、学生を対象とした意識調査(注3)の結果の一部を実習園へ提示し、その内容に対する実習園側の実態や認識・意見を聴取する形式で幼稚園教育実習に関する九州全県の幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園(以下、幼稚園等とする。)側の意識を明らかにすることを目的としている。同時に本学科学生の取り組みの結果を通じて多様な幼稚園等での実習(実習の名称は幼稚園教育実習に統一する。)の実態と変化の動向についての情報を幼稚園等側に提供することを意図している。

### 2. 調査対象及び方法

第1次調査は福岡県内の全ての幼稚園等の計458園を対象に平成30年3月に発送した。第2次調査は佐賀県及び大分県内の全ての幼稚園等の計381園(佐賀県119園、大分県262園)を対象として平成31年1月に質問紙を郵送した。しかし、リストの不備で既に閉園になっていた園が大分県で15園あり、質問紙が返送されてきたため、実質的には366園(佐賀県119園、大分県247園)を対象とすることになった。第3次調査は残る長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県の全幼稚園等の計951園(長崎県205園、熊本県212園、宮崎県206園、鹿児島県324園)を対象と

して平成2年2月に質問紙を郵送した。しかしここでも、名簿の不備で既に閉園していた園などが26園、社会福祉法人立の幼保連携型認定こども園などで、幼稚園教育実習の受け入れ経験や意思がないとして無回答の返信があった園が40園あり、実質的な調査対象園は884園となった。

回収数は第1次調査が206件で回収率45%、第2次調査が186件であったが、フェースシート未記入が2件あったためこれを除外した184件で回収率は50.3%、第3次調査は385園で回収率は43.6%であった。各調査実施に先立ち、福岡市市立幼稚園連盟会長、佐賀県私立幼稚園・認定こども園連合会会長、大分県私立幼稚園連合会会長、大分県国公立幼稚園会会長、長崎県私立幼稚園連合会会長、熊本県私立幼稚園連合会会長、宮崎県私立幼稚園連合会会長、鹿児島県私立幼稚園協会会長を訪問、調査の趣旨を説明して協力依頼を行った。

### 3. 結果と考察

質問項目は枝質問を加えて計27問となっている(フェースシート項目5問を含む)。回答形式は選択肢形式と自由記述形式を併用している。以下、質問紙順に結果を明らかにする。なお、本稿の性質上、学生アンケート結果については、「幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識」及び「幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識2 - 佐賀県・大分県調査」に記載した内容の再掲を含んでいる。詳細は前掲の「幼稚園教育実習に関する意識調査1993-2016」の該当部分を参照されたい。

なお、本調査は3年にわたり調査したため、集計にあたっては別途調査として取り扱うべきところであるが、ここでは一括した調査として取り扱うこととする。なお、

第3次調査で使用したアンケートの内容は論文末に掲載している。

### 1) 幼稚園教育実習の実習内諾依頼について

実習園確保の観点から、実習先の内諾確保を始める時期が次第に早まっていることに対して、「今のままで良い」が前学期は81.9%、後学期は77.7%、であり、現状維持で良いように考えられるが、後学期については大分県を除く各県で「もう少し早い方が良い」の若干の増加がみられる。大学の学年暦や園側の受け入れ環境を考えると学生の希望する依頼時期の期間繰り延べを行うより、学生への指導を充実するほうが現実的であると思われる。また、自由記述は福岡県37件、佐賀県が8件、大分県が11件、長崎県が18件、熊本県が11件、宮崎県が12件、鹿児島県が15件で、内容は、「わざわざお越し頂かなくても電話やメールでよい」のように電話や訪問の手順やマナーに関する要望が中心で、もっと早くやもっと遅くなど、相反する要望もあり、大量の学生の統一的な差配を考えると幼稚園等にご無理をお願いするしかない様であった。ただ、「職員の異動等により前年度に内諾しても受けられない可能性があるため」など早期の依頼から生じる問題点の提起もあった。実際に2019年度の実習において、内諾後の2月に次年度からの休園が決定したとの連絡を受けて、実習園を急遽変更したという事案が発生している。

### 2) 事前事後指導等について

2016年の学生アンケートから見ると、事前事後指導で役に立ったものは、巻末アンケート表4にあるように「先

輩の作品集」、「先輩の実習記録」、「指導案の書き方」、「日誌の書き方」、「実習生としての心構え、役割に関する知識」が上位を占めているが、幼稚園の評価が表2である。表は実数と回答の4件法の選択肢に重み付け（非常に重要4ポイント、重要3ポイント、あまり重要でない2ポイント、重要でない1ポイント）をして平均を出した結果で示しているが、幼稚園等側の考えとしては「心構え・役割に関する知識」が3項目とも全県で平均のポイントが約3.5を超えて上位3位までを占めている。次いで、平均のポイントが3.2～3.0程度の群として「指導案の書き方」、「日誌の書き方」、「幼児指導の具体的留意点」、「実習の流れについての見通し」、「事前準備についての知識」が全県で挙げられている。その次の群は「手遊びのビデオとプリント（保育実技体験）」で、福岡県を除くと3ポイントに近く実習生の実技力に期待していることが感じられる。ここに関しては2次調査以降において分かりにくいとの指摘から項目名「手遊びのビデオとプリント」を「手遊びのビデオとプリント（保育実技体験）」に変更したことの影響が考えられる。一方指導案作成や日誌作成のベースとなる、「先輩の作品集（情報共有）」や「先輩の実習記録（モデル理解）」の平均値のポイントは2.5～2.4程度で評価が低い。このように学生は具体的事例と方法に興味が集中している一方で、幼稚園等側は「心構え・役割の知識」に焦点が当てられており、このズレを調整していくことが、より効果的な事前事後指導と幼稚園教育実習の実施に繋がっていくと考えられる。大学のシラバス等にも「心構え・役割の知識」についてさらに内容を充実させることやシラバスに記してある内容を実習中に経験できるように養成校と幼稚園等での情報共

表1. 幼稚園教育実習依頼時期

前学期	福岡		佐賀		大分		長崎		熊本		宮崎		鹿児島		計	
	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%
もう少し早い方が良い	11	5.3	—	—	3	2.4	1	1.2	4	4.6	4	4.2	11	9.2	34	4.4
今のままで良い	162	78.6	50	87.7	104	81.9	69	84.1	67	77.0	86	89.6	97	80.8	635	81.9
もう少し遅い方が良い	26	12.6	5	8.8	15	11.8	9	11.0	13	14.9	5	5.2	10	8.3	83	10.7
わからない	6	2.9	2	3.5	5	3.9	3	3.7	2	2.3	1	1.0	2	1.7	21	2.7
無回答	1	0.5	—	—	—	—	—	—	1	1.1	—	—	—	—	2	0.3
後学期	福岡		佐賀		大分		長崎		熊本		宮崎		鹿児島		計	
	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%
もう少し早い方が良い	16	7.8	6	10.5	2	1.6	10	12.2	6	6.9	6	6.3	19	15.8	65	8.4
今のままで良い	164	79.6	44	77.2	100	78.7	63	76.8	61	70.1	80	83.3	91	75.8	603	77.7
もう少し遅い方が良い	19	9.2	4	7.0	18	14.2	6	7.3	17	19.5	8	8.3	9	7.5	81	10.4
わからない	6	2.9	2	3.5	7	5.5	3	3.7	2	2.3	2	2.1	1	0.8	23	3.0
無回答	1	0.5	1	1.8	—	—	—	—	1	1.1	—	—	1	0.8	4	0.5

設問 Q1-1. 前学科幼稚園教育実習（5月末から6月）内諾依頼の時期（10月末から12月）は

設問 Q1-2. 後学科幼稚園教育実習（10月）内諾依頼の時期（1月から3月）は

表2. 事前事後指導内容の重要度

	実数																実数																実数																実数															
	非常に重要								重要								あまり重要ではない								重要ではない								ウエイト																															
	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島																													
保育者としての心構え・役割に関する知識	122	38	78	51	52	59	83	83	19	44	28	35	36	36	1	0	5	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3.59	3.67	3.57	3.60	3.60	3.62	3.68																													
実習生としての心構え・役割に関する知識	131	40	91	55	55	65	84	74	17	32	25	32	27	36	1	0	4	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3.63	3.70	3.69	3.67	3.63	3.65	3.70																													
社会人としての心構えと行動に関する知識	102	32	73	41	48	65	69	101	24	46	39	33	29	48	3	1	8	1	5	1	3	0	0	0	0	1	0	0	3.48	3.54	3.51	3.49	3.47	3.67	3.55																													
指導案の書き方	59	15	38	14	24	23	40	127	37	80	57	47	60	72	20	4	9	9	16	10	7	0	1	0	1	0	2	1	3.19	3.16	3.23	3.04	3.09	3.09	3.26																													
日誌の書き方	58	13	33	13	23	18	39	124	38	83	56	50	65	70	24	5	11	11	14	10	9	0	1	0	1	0	2	2	3.17	3.11	3.17	3.00	3.10	3.04	3.22																													
幼児指導の具体的留意点	64	21	37	15	24	33	42	124	32	79	58	50	57	70	18	3	11	8	12	4	8	0	1	0	0	0	1	0	3.22	3.28	3.20	3.09	3.14	3.28	3.28																													
実習の流れについての見通し	39	11	19	10	12	13	25	129	35	84	60	54	60	82	38	10	24	10	21	21	13	0	0	0	0	0	1	0	3.00	3.02	2.96	3.00	2.90	2.89	3.10																													
事前準備についての知識	47	12	24	14	13	16	29	124	38	77	54	56	63	73	35	7	25	13	17	13	18	0	0	0	0	0	2	0	3.06	3.09	2.99	3.01	2.95	2.99	3.09																													
友達への報告(情報の共有)	10	5	6	2	3	7	8	67	21	55	37	30	36	41	111	27	60	38	50	43	65	16	3	5	4	3	7	6	2.35	2.50	2.49	2.46	2.38	2.46	2.43																													
先輩の作品集(先輩との情報共有)	11	4	7	3	2	6	8	66	21	52	38	28	34	50	113	28	59	36	49	51	56	15	3	6	4	7	4	5	2.36	2.46	2.48	2.49	2.29	2.44	2.51																													
先輩の実習記録(モデル理解)	10	6	14	4	4	8	11	84	23	51	36	41	43	53	101	25	56	38	35	41	50	10	2	5	3	6	3	5	2.46	2.59	2.59	2.51	2.50	2.59	2.59																													
手遊びのビデオとプリント(保育実技体験)	23	9	20	12	11	15	25	109	34	80	51	47	54	67	1	11	24	16	24	24	28	53	2	1	2	4	2	0	2.55	2.89	2.95	2.90	2.76	2.86	2.98																													

設問 Q2-1. 事前事後指導内容に関してどのような項目が重要と思われるか貴園のお考えは如何でしょうか。番号をお選びください。  
 注) ウェートとは「非常に重要」を4点、「重要」を3点、「あまり重要ではない」を2点、「重要でない」を1点として全回答者(無回答者を除く)の平均値

有と共通認識が必要である。

自由記述で最も多いのは「社会性や行動」関係の55件(福岡県20件、佐賀県4件、大分県10件、長崎県5件、熊本県5件、宮崎県7件、鹿児島県4件)で、次いで、「意欲・積極性」関係の41件(福岡県13件、佐賀県3件、大分県5件、長崎県4件、熊本県5件、宮崎県7件、鹿児島県4件)、「日誌・指導案」関係の34件(福岡県12件、大分県6件、長崎県6件、熊本県4件、宮崎県2件、鹿児島県4件)などが挙げられており、前述の結果を裏付けていると思われる。「インスタ、ツイッター等」に実習中の気持ち、写真等安易にアップする人がいるのでやめて欲しい」等の守秘義務やSNS等に関する言及が佐賀県で2件、鹿児島県で3件見られた。これに関しては大学の指導においても神経を使っているところであり、今後も重点的に指導していく。

### 3) 幼稚園教育実習への適応状況について

論文末アンケート表5, 6に示しているように学生アンケートでは、幼稚園教育実習への適応状況を「実習の好感度」と「実習中の健康状態」を指標として探ったが、全体として好感度は安定しており、健康状態に関しても特に問題の無かったことを示したが、幼稚園等側の自由記述は286件(福岡県80件、佐賀県26件、大分県31件、長崎県32件、熊本県35件、宮崎県34件、鹿児島県48件)であった。「実習中に体調を壊す方が以前より増えたようです」など健康の重要性や心配、配慮に関する記述が最多で99件(福岡県27件、佐賀県10件、大分県13件、長崎県8件、熊本県10件、宮崎県18件、鹿児島県13件)に及んでいた。次いで、「たのしい気持ちが強いのに安心

しました。仕事の意欲につながります」など「楽しかった」を肯定的に受け止める意見が60件(福岡16件、佐賀県8件、大分県5件、長崎県9件、熊本県9件、宮崎県9件、鹿児島県12件)見られた。一方で、楽しさの定義や充実感との絡みを指摘する意見が16件見られた。近年の学生の積極性の低下認識から「楽しい」と「らく」の連動を危惧したと思われる意見であるが、後に触れる実習の在り方にかかわる考え方の差異が根底にあると思われる。

### 4) 実習体験内容1(全体)

先の報告で幼稚園教育実習中の指導体験として「全日保育」や「半日保育」が激減し、「朝の会や帰りの会の指導」や「給食指導」も減少し、「主活動」は若干増加し、「絵本読みや指あそびなどの一部の指導」が高水準(概ね80%台)を維持しているとの指摘をし、幼稚園教育実習の断片化が起こっているのではないかと論じたところである(論文末アンケート表7参照)。

それを踏まえての幼稚園等側の認識を聞いた結果が表3である(表2同様の方法で重み付けをして平均ポイントを算出している)。どの指導実習項目に関しても、ポイントが、前学期より後学期が概ね高くなっていることから、2回の幼稚園教育実習を見学実習と責任実習(指導実習)の概念で実施していることの現れであると思われる。具体的な指導実習項目としポイントが高いのは、「絵本読みや指遊びなど一部の指導」で前学期では九州全県で各項目の中の1位となっている。後学期においても「主活動の部分だけの指導(設定保育)」に次いで九州全県で2位となる高い平均値を示している。これが学生の指導実習実態と連動していることが窺える。実習で



の「主活動の部分だけの指導（設定保育）」と「絵本読みや指遊びなど一部の指導」の重視と機会の拡大は、結果として学生に実習準備とは「ネタ探し」とその練習という偏った考えを強めているのではないかと危惧する。とは言っても「全日保育」のウェイトは前学期では最低の長崎県2.40から最高の佐賀県2.96、後学期では最低の長崎県2.91から最高の佐賀県3.22まで、順位は低いが、それなりのポイントを維持しているともいえる。全日保育や半日保育が減少している理由については自由記述483件（福岡県135件、佐賀県41件、大分県68件、長崎県52件、熊本県55件、宮崎県62件、鹿児島県70件）の回答があり、幼稚園等にとっても非常に関心のある項目であることが分かる。原因について整理すると、「園の多忙化」172件（福岡県56件、佐賀県15件、大分県33件、長崎県23件、熊本県22件、宮崎県14件、鹿児島県9件）、「学生の力不足」80件（福岡県33件、佐賀県12件、大分県9件、長崎県7件、熊本県8件、宮崎県2件、鹿児島県9件）、「学生の意欲不足」46件（福岡県14件、佐賀県4件、大分県8件、長崎県5件、熊本県7件、宮崎県3件、鹿児島県5件）、「園児への配慮」7件の他、「学生の負担軽減」、「幼稚園教育実習の制度的な困難」（幼稚園教育実習期間の短さ等）、「他の指導内容の方が良い」などが挙げられていた。必要性を感じないと言うよりも幼稚園等や園児の環境変化、学生の能力と意欲の低下を感じて減少している実態が窺えるが、学生の問題より幼稚園等側の事情を理由とする方が多いことは、学生指導の改善だけでは問題の解決に繋がらないことは九州全県に共通であると考えられる。

一方、「その他の実習体験に関する意見」56件（佐賀県23件、大分県33件）の中には、「教員免許状の取得要

件として全日、半日保育は必須とすべき」、「現場で就職したら1人で担任して全日保育の場面もあると思うので、実習の段階で全日指導を経験することは本人の為になるのではないか」、など全体や就職を見越しての全日、半日保育の重要性を指摘する意見もあった。

## 5) 実習体験内容2（勉強になったこと）

学生アンケートによると、間接的な学びについては評価が一時期は上がっているが、近年は若干低下傾向にある一方で、体験型の学びは評価が安定している（論文末アンケート表8参照）。

さらに2016年から選択肢の「設定保育」を細分化して見た場合に、体験した中で評価が高いのは、「全日保育」や「半日保育」であった（論文末アンケート表8参照）がこれに対する自由記述は314件（福岡県80件、佐賀県33件、大分県39件、長崎県31件、熊本県40件、宮崎県40件、鹿児島県51件）であった。内容は多岐に亘っているが、「全日・半日保育は大切、増やしたい」との意見が50件ある一方、「見て学ぶことの大切さ」、「園児とのふれあいを大切に」、「実習のやり方や期間の短さからの限界」などが意見の広がりが見られた。

## 6) 実習訪問について

実習訪問への学生の要望は年を追って概ね上昇している。（論文末アンケート表9参照）これに対する自由回答は328件（福岡県83件、佐賀県29件、大分県39件、長崎県44件、熊本県39件、宮崎県38件、鹿児島県56件）あった。幼稚園等側の認識としては「学生のサポート」としての実習園訪問の認識が100件（福岡県22件、佐賀県12件、大分県14件、長崎県11件、熊本県11件、宮崎県13件、鹿

表3. 実習体験内容の重要度

前学期	非常に重要								重要								あまり重要ではない								重要ではない								ウェイト							
	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島					
全日保育	51	18	19	9	10	24	26	79	21	33	26	29	32	52	62	16	62	34	38	31	37	14	2	11	12	9	7	3	2.81	2.96	2.48	2.40	2.47	2.78	2.86					
半日保育	49	16	13	13	8	21	18	87	26	42	30	38	37	53	60	12	59	31	33	29	44	10	3	11	7	7	6	3	2.85	2.96	2.46	2.60	2.55	2.78	2.73					
朝の会や帰りの会	40	9	12	12	8	22	23	115	26	61	41	50	48	71	45	20	47	25	25	18	24	5	2	5	3	3	5	1	2.93	2.74	2.64	2.77	2.73	2.94	2.97					
主活動の部分だけの指導（設定保育）	72	18	42	29	18	30	39	95	26	57	35	43	40	64	34	11	21	15	23	19	15	5	2	5	2	2	3	1	3.14	3.05	3.09	3.12	2.90	3.05	3.18					
給食だけの指導	18	7	16	8	8	16	22	75	28	67	32	49	47	65	92	19	37	36	26	22	31	21	2	4	5	3	6	1	2.44	2.71	2.77	2.53	2.72	2.80	2.91					
絵本読みや指遊びなど一部の指導	70	18	44	23	20	33	33	108	32	72	51	55	53	78	27	5	8	5	10	5	7	1	0	0	1	1	1	1	3.20	3.24	3.29	3.20	3.09	3.28	3.20					

後学期	非常に重要								重要								あまり重要ではない								重要ではない								ウェイト							
	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島					
全日保育	83	24	31	24	22	37	35	66	19	39	30	39	33	53	45	10	46	21	20	17	27	12	1	7	5	4	4	2	3.07	3.22	2.76	2.91	2.93	3.13	3.03					
半日保育	74	20	27	17	18	29	28	84	26	47	43	41	38	56	37	6	43	16	21	19	32	11	2	6	4	5	4	1	3.07	3.19	2.77	2.91	2.85	3.02	2.95					
朝の会や帰りの会	50	10	22	16	15	28	28	108	27	66	46	51	48	73	42	15	32	15	17	11	16	5	2	4	3	3	3	1	2.99	2.83	2.85	2.94	2.91	3.12	3.08					
主活動の部分だけの指導（設定保育）	88	19	65	36	28	39	47	84	27	45	38	41	39	63	29	7	11	5	17	9	7	5	1	3	1	0	3	1	3.24	3.19	3.39	3.36	3.13	3.27	3.32					
給食だけの指導	29	7	23	14	16	23	24	70	33	74	43	49	51	70	87	12	22	21	19	10	24	20	0	0	3	2	5	0	2.52	2.90	3.01	2.84	2.92	3.03	3.00					
絵本読みや指遊びなど一部の指導	78	17	48	28	20	37	36	97	30	66	51	53	45	75	28	6	8	1	12	6	6	3	1	0	1	1	1	1	3.21	3.17	3.33	3.31	3.07	3.33	3.24					

設問 Q4. 実習体験内容に関してどのような項目が重要と思われるか貴園のお考えはいかがでしょうか。

注) ウェイトとは「非常に重要」を4点、「重要」を3点、「あまり重要ではない」を2点、「重要でない」を1点として全回答者（無回答者を除く）の平均値

表4. 望ましい登園時間と降園時間

登園	時間帯	7:00	7:10	7:20	7:30	7:40	7:45	7:50	8:00	8:05	8:10	8:15	8:20	8:30	9:00	9:30	無回答
福岡	2			2	11	4	4	1	116		4	5	1	45	6	2	3
佐賀	1				1			1	38		1	2		13			0
大分		1			3	1	2	1	93	1	1	4	1	14			5
長崎					4	1	5	1	44			2		20			5
熊本					3	2	1		60		1	1	3	11	3		2
宮崎					7		1		56			2	2	21	4		3
鹿児島	1				7		3	3	77			7	1	13			5

降園	時間帯	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:25	16:30	16:40	16:45	16:50	16:55	17:00	17:10	17:15	17:20	17:30	18:00	18:30	無回答
福岡	1	1	1	1	1	8		28		1		148	148		2		11			4
佐賀						1		3				43	43		2	1	6	1		0
大分					1	7	1	26	3	4	2	68	68		1		9			5
長崎					1	4		12		3	1	1	44		1		10			5
熊本				1		6		5		2			60	1	1	1	6	1	1	2
宮崎				1		5		16		2			59		1		9			3
鹿児島		1			1	2		9		5	1		77		2	1	13	3		5

設問 Q7. 基本的登園時間と降園時間は何時頃が望ましいとお考えでしょうか。

児島県17件)と「幼稚園等と大学の情報交換の場」としての位置づけが76件(福岡県22件、佐賀県4件、大分県11件、長崎県4件、熊本県13件、宮崎県9件、鹿児島県13件)が多い。次いで訪問者と学生の関係性や訪問での行動内容など「訪問者のあり方への要望」(34件)もみられ、実習訪問は短期間で全学生を対象に行うために実施においては各大学で苦心しいところではあるが、実態に関する評価を謙虚に受け止める必要があると考える。また実施の可否についての意見は少数であるが、「有るほうがいい」と「遠方は来なくていい」など相反する意見が見られる。

## 7) 実習中の登降園時間について

幼稚園等考えている登降園時間は表4のとおりであった。登園時間に関しては、午前7時から8時30分の間の時間が指定されており、福岡県が一番幅が広く、長崎県が一番幅が狭かった。九州各県で最も多いのは午前8時で、次いで午前8時30分となっている。ただし、九州全県で43件(5.6%)が午前7時半以前の登園となっており、通園時間にもよるが、学生生活としての通常の早寝早起きの習慣形成では対処が難しい時間帯であることが危惧される。降園時間に関しては、午後2時30分から午後6時30分の間の時間が指定されており、九州各県とも最も多いのが午後5時近辺となっている。学生アンケートの対象園と幼稚園等アンケートの対象園は同一でないが、学生が指示を受けた登降園時間と園が望ましいと考える登降園時間にズレが生じることは想定していたことであるが、登園時間に関しては登園時間が後ろにずれている園が若干ある以外はほぼ同等の傾向と見て取れる。降園時間に関しては、ピークは学生アンケートの回答と幼稚園等アンケートの回答はほぼ同等であるが、学生の認識として実習開始前に指定された時間と実習中に実態に応じて日ごとに指示された時間の混同などで、時間の幅が

広がっているのではないかと考えられる。

自由記述は211件(福岡県46件、佐賀県18件、大分県43件、長崎県23件、熊本県28件、宮崎県22件、鹿児島県31件)であった。「実習園の勤務時間と同様で良い」など職員と同様の勤務時間を考えているという内容が60件(福岡県18件、佐賀県4件、大分県20件、長崎県6件、熊本県4件、宮崎県5件、鹿児島県3件)で実習生の位置づけに関する園の意識が表れているように思われている。更に、「早番・遅番体験させたい」、「園児の登降園を見られる時間」など登園時間の前倒しや降園時間の後ろ倒しの要因となる要素の表明も見られる。その一方で「今は長くできない」、「迷っている」、「早く帰す」、「大学の方針に従いたい」という意見も散見されており、意識の幅の広さが窺えた。その他、時間とは関係ないが、登降園関連として安全に関する配慮も見られた。

この様に、実習生の位置づけを準職員とするか、あくまで学生とみなすか、学習体験の幅をどのくらいまで考えるか、更に、幼稚園等の一日のスケジュールや行事の準備等の関係で実習学生の登降園の時間の変動があることは避けえないが、高等教育における教育実習という観点からは実習時間数の管理やその後の活動時間の確保からある程度の標準化を考えていく事も九州全県で考える課題になると思われる。

## 8) 実習中の睡眠について

実習中の平均睡眠時間は5時間未満が46.3%、5～6時間が36.0%の合計で6時間以下が82.3%であった(論文末アンケート表12、13参照)ことに対する自由記述は446件(福岡県105件、佐賀県39件、大分県62件、長崎県50件、熊本県60件、宮崎県60件、鹿児島県70件)であった。「自分も同様でした」など睡眠不足を普通のことと捉える内容が76件(福岡県22件、佐賀県10件、大分県6件、長崎県7件、熊本県11件、宮崎県12件、鹿児島県8

件)であったが、福岡の回答で見られなかったものとして「家でしなくてはいけない日誌など、休憩時間に書いていただいたりしています」など実習時間内の活動内容の見直しをしている例も66件(佐賀県9件、大分県15件、長崎県9件、熊本県8件、宮崎県10件、鹿児島県15件)も見られるほか、パソコンの活用を含む日誌の簡素化・効率化を求めるものが88件(福岡県18件、佐賀県4件、大分県11件、長崎県10件、熊本県15件、宮崎県8件、鹿児島県22件)であった。また、「しっかりと睡眠を取って欲しい」との学生の健康を気遣う内容が62件(福岡県17件、佐賀県2件、大分県6件、長崎県10件、熊本県11件、宮崎県5件、鹿児島県11件)、その他、職種全体の課題ととらえている回答や就職への悪影響を危惧する回答も見られた。一方で、個人差や事前の準備不足、個人的理由の可能性や自己責任に触れている意見も少数であるが見られた。自由記述を九州全県で見ると睡眠不足は仕方ないという意見と危惧するという意見に分かれているように思われる。改善の方策としては実習時間の使用方法の見直し(実習時間内の日誌作成)と記録作成の内容改善(保育の展開の部分の省略化と考察部分の重視)とIT化による効率化が提言されている。ただ、保育の展開部分の記録の省略は保育観察が保育見学に劣化しないかとの危惧があり、IT化も基本的には必要な方向であるが、幼稚園等の現場のIT化と並行で進めなければ、多様な保育現場に送り出す養成校としては逆に学生への事前指導の厩大化と該当しない学生の疲労感を高めるのではないかと危惧する。

## 9) 園務・作業等の内容について

学生が体験した園務、作業は、「配属保育室清掃」、「トイレ清掃」、「園庭整備」、「配属外保育室清掃」が上位を占めていたという内容(論文末アンケート表14参照)に対して、「是非必要な園務や作業体験」に関する自由記述は635件(福岡県170件、佐賀県43件、大分県104件、長崎県67件、熊本県72件、宮崎県82件、鹿児島県97件)と非常に多くの回答があった。「清掃・環境整備(全般)」といった漠然とした清掃関係が234件(福岡県74件、佐賀県18件、大分県37件、長崎県25件、熊本県24件、宮崎県24件、鹿児島県32件)となっている。個別では、「保育室清掃が222件(福岡県60件、佐賀県15件、大分県39件、長崎県22件、熊本県31件、宮崎県26件、鹿児島県36件)(配属外保育室と明記したものがその他に38件(福岡県7件、佐賀県6件、大分県15件、長崎県3件、熊本県4件、宮崎県2件、鹿児島県1件))」、「園庭清掃・整備」が138件(福岡県34件、佐賀県27件、大分県12件、長崎県8件、熊本県20件、宮崎県10件、鹿児島県27件)、「トイレ清掃」が141件(福岡県30件、佐賀県11件、大分

県29件、長崎県18件、熊本県16件、宮崎県15件、鹿児島県22件)で上位は清掃・整備関係が占めていた。続いて、「壁面製作」が100件(福岡県21件、佐賀県7件、大分県25件、長崎県10件、熊本県7件、宮崎県10件、鹿児島県20件)(他に、「環境構成」が55件(福岡県10件、佐賀県3件、大分県15件、長崎県2件、熊本県9件、宮崎県7件、鹿児島県9件)、「他の装飾製作」が35件(福岡県10件、佐賀県1件、大分県9件、長崎県6件、熊本県4件、宮崎県2件、鹿児島県3件)であった。後は「保育準備」72件(福岡県19件、佐賀県2件、大分県14件、長崎県10件、熊本県12件、宮崎県9件、鹿児島県6件)などがあり、ここまでが園児とあまり接触しない内容となっている。園児との接触がある項目としては、「預かり保育」38件(福岡県12件、佐賀県3件、大分県6件、長崎県1件、熊本県4件、宮崎県7件、鹿児島県5件)、「バス添乗・徒歩降園引率」が39件(福岡県12件、佐賀県5件、大分県3件、長崎県3件、熊本県5件、宮崎県7件、鹿児島県4件)、「園外保育引率」が55件(福岡県11件、佐賀県5件、大分県7件、長崎県11件、熊本県8件、宮崎県8件、鹿児島県5件)等となっていた。

大学での事前指導においても清掃の大切さに言及し、限られた範囲ではあるが、具体的に指導しているところであるが、九州全県に共通して幼稚園等側の清掃重視姿勢は強固であると言える。しかし、「実習生は用務員ではない」などの反対意見も散見される。

その他の自由記述としては177件(福岡県47件、佐賀県17件、大分県18件、長崎県19件、熊本県25件、宮崎県25件、鹿児島県26件)が挙がっていた。回答内容は一部に集中するというよりは「実際に働き始めると子どもと関わるだけの仕事ではないので様々な作業をすることは大切だと思う」や「少しでも多くの仕事を体験してもらいたい」など多様な体験の大切さに言及するものや「幼稚園での清掃、園庭整備等の必要性をしっかりと理解して実習に臨む事で立派な学びになると思う」など清掃の重要性や必要性に言及しているものや「自発性・一生懸命さ・忍耐力」の大切さに言及するものなどであった。また、一方で「園での園務・作業は実習に必要なのか?」、「子どもたちとのたくさん触れ合ってもらいたいののでトイレ清掃や園庭の清掃などはさせていません」や「子どもとの関わり観察すること、保育者の動きをしっかりと観察することが一番大切」などとしている意見もあった。また、「学生のみが清掃するのではなく、職員と一緒に清掃体験していくことが大切と考えます」や「園運営の中で行われている業務がどんなものであるのかや、園でどのように行われているのかを学ぶ(知る)ことは必要で、だからといって実習生にさせる(特に清掃や壁面など)のではなく、普段どおり、職員が行う中に実習生が入り、



一緒にやっていくことが職員とのコミュニケーションも取れ、会話の中でお互いに学ぶものが多くあってよいと思っています」などプロセス、実施形態に注目している意見もあった。また、多様な経験が重視されている一方で「園児降園後、清掃、一日の振り返りの話し合いで時間的にいっぱいである他のことは時間がとれていません」などの実情も表明されている。

#### 10) 園から受けた指導内容

学生アンケートによると、「クラス担任による反省会」、「日誌の添削」、「指導案の添削」が中心を占めていた（論文末アンケート表15参照）が、「是非必要と考える指導内容」についての自由記述は623件（福岡県166件、佐賀県45件、大分県103件、長崎県72件、熊本県75件、宮崎県76件、鹿児島県95件）であった。

ぜひ必要と考える指導内容は、「クラス担任による反省会・指導」が422件（福岡県108件、佐賀県33件、大分県58件、長崎県56件、熊本県55件、宮崎県47件、鹿児島県65件）で最多であった（他に範囲を特定していない反省会が43件）。次いで、「指導案の添削」が270件（福岡県68件、佐賀県21件、大分県46件、長崎県26件、熊本県30件、宮崎県29件、鹿児島県50件）、「実習日誌の添削」が290件（福岡県76件、佐賀県21件、大分県45件、長崎県30件、熊本県33件、宮崎県38件、鹿児島県47件）で上位であることは九州全県に共通であると言える。ついて数は半減以下となるが、「複数の職員が参加した反省会」が130件（福岡県26件、佐賀県15件、大分県31件、長崎県14件、熊本県16件、宮崎県19件、鹿児島県9件）、「園長・主任からの話」が83件（福岡県13件、佐賀県9件、大分県14件、長崎県10件、熊本県15件、宮崎県6件、鹿児島県16件）となっている。

このように実習生の指導は九州全県に共通してクラス担任がその中心を担っているが、園長・主任によるサポートや園全体でのサポート少ないように思われる。一方で、「担任の指導は必要ない」「担当も未熟である場合も多いので、多くの職員が参加して反省会ではなく、意見交換会としています。学生から見た園への意見も出ると活性化します。」など指導体制の弱さの表明やそれを逆に活用したいという意見もある。学生指導の主体をク

ラス担任に大きく依存する指導体制は、幼稚園と学生の双方に負担が大きくなることが九州全県に共通して危惧される。

その他の指導内容に関する意見は、偏りは見られず、学生の問題点から、反省よりやりがいや楽しさを伝え、日誌をしっかり作って宝物にしてほしいなど多岐にわたっていた。

#### 11) 実習日誌の返却について

学生アンケートによると、数日以内に返却される例が大半であるが、「最後にまとめて返却された」なども一定数ある（論文末アンケート表16参照）が、日誌の返却の形式についての自由記述は641件（福岡県166件、佐賀県43件、大分県109件、長崎県66件、熊本県72件、宮崎県84件、鹿児島県101件）あったが、日々の返却と最終的な返却の二つの解釈が混在していたので、明らかに日々の返却について言及しているものに限ると583件（福岡県147件、佐賀県37件、大分県102件、長崎県60件、熊本県65件、宮崎県80件、鹿児島県92件）であった。内容は実態と願望が混ざった回答ではあるが、「その日のうち」が57件（福岡県10件、佐賀県5件、大分県6件、長崎県10件、熊本県8件、宮崎県3件、鹿児島県15件）、「すぐ」が91件（福岡県21件、佐賀県3件、大分県16件、長崎県13件、熊本県11件、宮崎県12件、鹿児島県15件）、「翌日・次の日」が135件（福岡県63件、佐賀県10件、大分県35件、長崎県12件、熊本県27件、宮崎県29件、鹿児島県16件）で回答の約半数が早期の返却の実施や必要性を感じている。次いで、数日後が147件（福岡県34件、佐賀県10件、大分県26件、長崎県18件、熊本県12件、宮崎県20件、鹿児島県27件）で、業務等のために早期の返却が難しいことに言及していたものが多く見られた。また、担任だけの閲覧・添削だけではなく主任・園長の閲覧を行っているため時間がかかることに言及している回答も複数見られた。一方で、「1週間後」「まとめて」「最終日に」が25件で、あまり期間にこだわっていない回答も見られた。

日誌添削後の指導については表5の通りである。この設問の回答は県によって無回答の比率が大きく上下している。九州全県において概ね、「添削に基づく削除（消

表5. 日誌添削後の指導

	福岡		佐賀		大分		長崎		熊本		宮崎		鹿児島	
	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%
添削に基づく削除（消去）・修正を求める	147	71.4	43	75.4	93	73.2	60	73.2	64	73.6	66	68.8	77	64.2
特に指導しない	43	20.9	13	22.8	28	22.0	13	15.9	15	17.2	21	21.9	30	25.0
無回答	15	7.3	1	1.8	6	4.7	9	11.0	8	9.2	9	9.4	13	10.8

設問 Q11-2. 日誌添削後指導の指導についてどのようにお考えでしょうか。一つお選びください。

去)・修正を求める」が70%前後であった。「特に指導しない」が20%程度存在するが、それに関連した自由記述として「次の日の日誌で改善されていればよいと思う」というものがあり、実習生の負担軽減を考えてのことではないかと思われる。

日誌指導についての自由記述は288件(福岡県68件、佐賀県23件、大分県46件、長崎県33件、熊本県40件、宮崎県34件、鹿児島県44件)であった。その中で多いのは、「文章力・国語力」の問題指摘・改善要望が47件(福岡県19件、佐賀県2件、大分県4件、長崎県5件、熊本県8件、宮崎県5件、鹿児島県4件)や「大学の方針・指導充実要望」が28件(福岡県3件、佐賀県1件、大分県10件、長崎県3件、熊本県3件、宮崎県4件、鹿児島県4件、ついで、担任・実習生の負担軽減関連が「学生の負担減・書式改善で負担減」の28件(福岡県4件、佐賀県2件、大分県7件、長崎県2件、熊本県4件、宮崎県4件、鹿児島県5件)の他、「ICT化」8件、「添削なし・口頭で良い」2件、「お礼などの前置き不要」1件などがあった。また、先にも挙がっていたが、「事実より考察を」が15件挙がっていた。その一方で「日誌の添削をし、書き換えるよう(言葉、誤字等)指導しても従わない人もいたり、書き方の指導を通じずに、どう添削してよいかわからない人などもいた」(原文ママ)「指導にあった通りに記入して欲しい」「厳しく指導しない」「添削の程度に悩む」「修正方法の疑問」など指導の実際場面に園側の悩みが窺え、大学側の事前指導等の問題点として改善に取り組む必要があると思われる。

実習日誌の閲覧・添削指導は、学生の学習内容の確認のほかに将来の保育者としての文書作成能力の教育まで含まれるために負担の多い業務である中、クラス担任や園長・主任に過大な御配慮をいただいているのが現状であろうと思われる。養成校と実習園で日誌指導の効率化の模索をしなくてはならないところであろう。

## 12) フェースシート

アンケート回答幼稚園等の属性は以下の通りである。

### ① 幼稚園(こども園)の所在地と設置者と施設区分

今回の調査は九州全県の幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園を対象としたが、第1次調査の福岡県においては子ども園数が全体の2%程度と想定されていたために、国公立・私立の区分しかしていなかった。しかし、2次調査の準備過程で福岡県外では認定こども園数が増大するとともに、社会福祉法人立の認定こども園数が急激に増加していることが判明したために、これを反映して項目を改めた。回答の構成は表6、表7のように、設置者区分では、九州全県では公立幼稚園等が17.7%、学校法人立幼稚園等が37.9%(福岡県を

除く。但し、福岡県の概数を入れると64%程度と推計される)、社会福祉法人立の幼稚園等も20%程度(佐賀県19.3%、大分県31.5%、長崎県24.4%、熊本県36.8%、宮崎県22.9%、鹿児島県25.8%)を占めている。また、施設区分で見ると幼稚園が27.5%(福岡を除く。ただし福岡の概数を入れると53%程度と推計される。)

表6. 貴幼稚園(こども園)の所在地と設置者区分

	公立	学校法人立	社会福祉法人立	その他	計
福岡	23	私立 183			206
佐賀	5	41	11	—	57
大分	51	33	40	3	127
長崎	12	49	20	1	82
熊本	14	41	32	—	87
宮崎	5	68	22	—	96
鹿児島	27	62	31	—	120
計	137	294	156	4	775

※学校法人立計、社会福祉法人立計、その他計には福岡県私立を含まない。

※全体数には福岡県私立を含む。

※宮崎県計は無回答1園を含む

表7. 貴幼稚園(こども園)の所在地と施設区分

	幼稚園	幼稚園型認定こども園	幼保連携型認定こども園	
福岡	未調査			206
佐賀	20	8	29	57
大分	68	16	43	127
長崎	24	16	42	82
熊本	29	16	42	87
宮崎	25	34	37	96
鹿児島	47	18	55	120
計	213	108	248	775

その背景としては佐賀県において幼稚園の認定こども園化が進んでいることや社会福祉法人による幼稚園等の設置が進行している事と、大分県等においては小学校併設の公立幼稚園が多いこと(しかし、近年都市部外において休園が相次いでいる。)や、それに反比例して社会福祉法人立の認定こども園が増加していることが他の4県においても同様の事態が進行していることが挙げられる。福岡県においても社会福祉法人立の幼保連携型こども園の新設が見られるようになってきている。

ここに挙げている数字はあくまでもアンケートの回答園の構成であるが、冒頭で触れたように社会福祉法人立の認定こども園からの回答拒否が多数に上っていることなどから実際にはここに上げた数字以上の変化が起こりつつあることが想像される。

### ② 最近5年間における本学科の実習生の有無

今回のアンケートは一般論としての幼稚園等の幼稚園教育実習に対する意識の実態を調査するものであった



が、使用した学生アンケートが本学学生の実習実績であるために特にこの項目を設けた。結果は表8の通りで、「引き受けたことがある」が48.3%（福岡県75.2%、佐賀県64.9%、大分県49.6%、長崎県28.0%、熊本県39.1%、宮崎県37.5%、鹿児島県21.7%）であった。

また、本学科の実習生に対する評価についての自由記述は229件（福岡県76件、佐賀県23件、大分県46件、長崎県14件、熊本県25件、宮崎県25件、鹿児島県20件）であった。実習生等に対する高評価を頂いたものが68件、大学の取り組みに高評価を頂いたものが11件であり、大変ありがたい結果であったが、学生への要望（3件）や個別の学生の問題の指摘（1件）などもあり、今後更なる指導の充実に努めなければならないと考える。

表8. 最近5年間の間に本学科の実習生を引き受けたことがあるか

	引き受けたことがある		引き受けたことはない		不明・無回答	
	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%
福岡	155	75.2	42	20.4	9	4.4
佐賀	37	64.9	14	24.6	6	10.5
大分	63	49.6	44	34.6	20	15.7
長崎	23	28.0	49	59.8	10	12.2
熊本	34	39.1	37	42.5	16	18.4
宮崎	36	37.5	49	51.0	11	11.5
鹿児島	26	21.7	73	60.8	21	17.5

#### 4. 総合考察

今回、これまで学生や幼稚園等との接触によって感覚的に感じていた幼稚園教育実習に関する幼稚園等の意識と実態について、九州全県で統計的にデータを収集することができた。これらを元に養成校としての取り組みの改善や実習先である幼稚園等との共通理解の向上を図り、より効果的な幼稚園教諭養成の仕組みを作り上げていかなければならないと考える。

上記の内容から得られた課題・問題点は以下の通りである。

- ① 事前事後指導の重要性について、九州全県共通に学生と幼稚園等の側に項目間で乖離が見られる。これは幼稚園教育実習に対する両者の認識にずれがあることが原因と思われるので共通認識を作っていくことが求められる。
- ② 実習の適応状況については、九州全県で幼稚園等の側も学生の健康状態についての憂慮があることや、「実習が楽しい」という評価について肯定的な意見がある一方、このような考え方を警戒する意見も見られた点も共通であった。一見、些細なことのように見えるが、厳しい課題に向き合いそれを乗り越えて

行くもの（修行モデル）なのか、明確化された導きの下に主として成功体験の積み重ねによって成長していくもの（育成モデル）なのか、といった実習の在り方についての本質的な意見の相違を背景に潜ませている可能性があり、幼稚園等との深い意見交換と認識の共有が必要と思われる。

- ③ 「全日保育」や「半日保育」はその重要性に対する認識よりも実施実態が低下していたが、低下の原因は園側の環境要因と学生側の要因があり、特に園側の環境要因が大きく述べられていたのは九州全県共通で、単純に状況変化を期待することは難しい。しかし、「全日・半日保育は大切、増やしたい」という意見も見られるので、何らかの対応策や代替策を幼稚園等との協議によって探っていく道も残されているように感じられる。
- ④ 実習訪問については、九州全県で「学生のサポート」と「園と大学の情報交換の場」として比較的肯定的に受け止められているが効果的な実施が課題であろう。
- ⑤ 登降園時間については、8:00を最大のピークとして、7:30、8:30がそれに次ぐピークとなっていることは九州全県で共通であるが、それ以前に設定している例もみられる。おそらく職員の出勤時間に準じているものと考えられる。降園に関しても九州全県で17:00を最大のピークとして次に16:30と17:30がピークとなっているがそれより遅い例も散見される。この幅の原因は実習生の位置づけを職員同等と見るかどうかによるようであった。（働き方改革を自由記述で上げている例も散見される）これも実習の基本的枠組みの認識の差の影響と考えられる。
- ⑥ 実習中の睡眠については、睡眠不足が当たり前という考え方と睡眠時間確保のための実習の効率化や勤務時間・勤務内容の見直しに言及している具体的意見が多数見られる。特筆する点として実習日誌の作成時間を実習時間内に設定しているという記載が福岡県以外では多く見られた。日誌の書式については保育実践の場でもWEB図やエピソード記録など様々な方法が取り入れられ、記録内容の充実と共に保育者の負担軽減も考えられて進められている。事務作業時間も就業時間中に確保できるように変化もしてきていることなど今後の改善へつなげる要素はあると考える。
- ⑦ 重要な園務・作業等の内容については、九州全県で「清掃・環境整備」関係が群を抜いている。保育及び子どもたちの安全確保の為に環境整備が重要であることも異論の無いが、そこには、専門性と密接に連動した構造化した体験と学びが存在しなくてはな

らないのではないかと考える。しかし、先の論文でも触れているが、沖原（注4）が103カ国の学校掃除に関する比較研究で明らかにしているように、アジア諸国、その中でも特に日本が清掃体験を通しての教育を重視しており、結果として「清掃を開悟の手段、人間修行の重要な方法とみる掃除観」（注5）が暗黙の共通理解として浸透しているのではないかと考えられる。人間教育を含みながらもより専門性の高い保育者養成のためには、幼稚園等と大学で清掃に関する概念・内容・指導についての認識の共有が必要ではないだろうか。

- ⑧ 幼稚園等から受けた指導内容は、九州全県で「クラス担任による反省会・指導」が最多で、（背後に園長や主任が控えていることはあるにしても）組織的な対応の回答は比較的少なく、クラス担任の力量に依存していることが窺える。看護師その他の専門職においては実習指導者の資格等が設定されており、保育士養成にも指導者資格の必要性が議論されているところである（厚生労働省は実習実施園における実習指導担当者を選定することを実習実施園に求めると共に実習指導者講習会を開始している）。安定的な実習生指導のために、手探りの実習指導担当者としてクラス担任を疲弊させないために何らかの仕組みが幼稚園教育実習にも必要ではないか。
- ⑨ 日々の実習日誌の返却については、九州全県で大部分の幼稚園等が早期の返却を重視しているが、これも慣れないクラス担任には過度の負担を強いている様子が窺える。返却システムの標準化や効率的な添削指導システムの開発と普及によってクラス担任の物理的・心理的負担を軽減すると共に指導を効率化することが必要と思われる。

以上のことから、極めて多様性のある幼稚園等での幼稚園教育実習と統一的指導になりがちな養成校での事前事後指導を含む教育の積極的すり合わせが必要である事が明らかとなった。保育士資格に於いては、保育士養成協議会から保育実習指導のミニマムスタンダードが2007年に発刊され、2018年にVer.2（注6）が出された。この中では、他の専門職における実習指導者講習や厚生労働省児童家庭局通知である保育実習実施基準についても触れられ、さらに保育実習Ⅰと保育実習Ⅱの捉え方と実習評価表の項目について言及している。幼稚園教育実習においても、養成校と実習実施園双方の実習指導者同士での協働の必要性が高まっている。

最後に幼稚園教育実習、ひいては幼稚園教諭養成に変革を強いる外的要因について触れる。

- ① 少子化にもかかわらず認定こども園の拡大や幼稚園

における未満児保育の拡大によって新規保育者需要は当面少子化の進行ほどの減少はしない見込みである。

- ② 一方、供給を見ると、18歳人口の減少により、当然減少率に応じて従来の意味での保育職志向の学生の減少が見込まれる。それに伴いそれまで学生募集に強いと言われていた地方短大の幼保系学科は学生募集に苦慮している（福岡県でも幼保系12学科中11学科が定員割れであり、その中には令和4年度入試の募集停止を発表している短大もある。また、福岡県教育便覧各年版から集計するとピークの平成26年度と比較して令和3年度の5月1日現在の在学生数は2,576名で1,030人の減少となっている。）。また、4年制大学への転換は人口規模や経済規模から非常に困難と考えられる。この状況はおそらく九州の他県も同様の傾向がみられるのではないかとと思われる。従って従来型での有資格卒業生の供給は先細りが見込まれる。従って、新卒保育職就職者数を確保するためには、従来層以外の保育職資格取得希望者の掘り起こしと保育職資格取得希望者の脱落率をぎりぎりまで下げることが必要となっている。
- ③ 社会に変化に対応した文部科学省の高等教育や教員養成に対する指導は結果として短期大学や学生に過度な負担（過密なカリキュラム等）を強いて、結果的に短期大学の存続を危うくする方向にあるとともに学生のゆとりもなくなってきた。（これは構造的に短大削減へ動いていると解釈できるかもしれない。）さらに、高校生へのイメージとして具体的には幼保系の短大は忙しすぎて大変との認識が広がっていることが危惧される。
- ④ 先に触れたように幼稚園実習先として認定こども園が増えているが、幼稚園と認定こども園（特に近年急増しつつある社会福祉法人立幼保連携型認定こども園）では現状の教育実習に対する認識の内容には差異が見られ（注7）、実習先と就職先が擦り掛けた場合の不応等が危惧される。
- ⑤ 社会の人権意識やハラスメント基準が変わるとともに、若者の高等学校までの学習体験の方法や形式が変化している。これにはその若者の背後にいる保護者の意識の変化も含まれる。

これまで、教育実習や新人教育は各園の教育理念、歴史的経緯、置かれている環境の中で真摯に取り組まれてきたことは確信しているが、今その在り方を顧みる時期に来ているのではないかと考える。

幼児教育が持続可能なシステムであり続けるためには、養成校での教育内容、教育実習の内容と方法、採用

内定者事前研修の内容と方法、新任者研修の内容と方法、実習指導者の育成を一貫したものと捉えて、養成校と幼稚園等団体組織等が協調して作り上げていくことが今後の課題になると思われる。具体例を挙げると、上手く行った時の効果は絶大であるが、「修行モデル」での指導は今後危険性が高くなるものと思われる。かといって就職希望者確保に偏重した緩い指導では優秀な保育者は養成できないことも当然である。何が各段階でのミニマムスタンダードと各園のオプションなのかを精査して「育成モデル」を作り上げ、それを発信していくことを目指す時代が来ているのではないだろうか。

本稿がそういった動きを生み出す一助となれば幸いである。

## 謝 辞

今回の調査実施に当たって、調査依頼の鑑文の中に「佐賀県私立幼稚園・認定こども園連合会」、「大分県私立幼稚園連合会」、「長崎県私立幼稚園連合会」、「熊本県私立幼稚園連合会」、「宮崎県私立幼稚園連合会」、「鹿児島県私立幼稚園協会」の御協力を得ています。」の一文を入れることができました。これによって各県の回収率を若干でもあげることができたのではないかと考えている。ご理解いただいた各県の連合会・協会の関係者の皆様へ改めて感謝申し上げます。

また、本学学生との縁が薄い「教育実習を引き受けたことが無い」また「不明」の園からも401件に上の回答を頂いており、感謝申し上げます。

## 引用・注釈

注1.「幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識」松尾智則、古賀和博、増田隆、永渕美香子、山崎篤、櫻井裕介 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第51号2019 pp.17-31

注2.「幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識2-佐賀県・大分県調査-」松尾智則、古賀和博、増田隆、永渕美香子、山崎篤、櫻井裕介、山下雅佳実 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第52号2020 pp.11-27

注3.「幼稚園教育実習に関する意識調査1993-2016」松尾智則、増田隆、久原広幸、久松薫 『中村学園教職教育研究』第2号 中村学園大学・中村学園大学短期大学部教職教育センター 平成30年3月 pp.15-19

なお、表に使用されているデータは、1993-2003年までは「幼稚園教育実習に関する意識調査」松尾智則、pp.47-52、中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第37号2005、2013-2015までは「幼稚園教育実習に関する意識調査2013-

2015」松尾智則 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第49号2017 pp.57-63、2016年については「幼稚園教育実習に関する意識調査2016」松尾智則 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第50号2018 pp.39-45の再掲である。

注4.「各国の学校掃除に関する比較研究」沖原 豊他7名 日本比較教育学会紀要 3号 1977 pp.37-46

注5. 同上 P43

注6.「保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2:「協働」する保育士養成」全国保育士養成協議会編集 中央法規 2018

注7.「幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識3 -設置者・施設種別分析-」松尾智則 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第53号 2021 pp.93-98



幼稚園教育実習に関する幼稚園アンケート  
鹿児島県調査

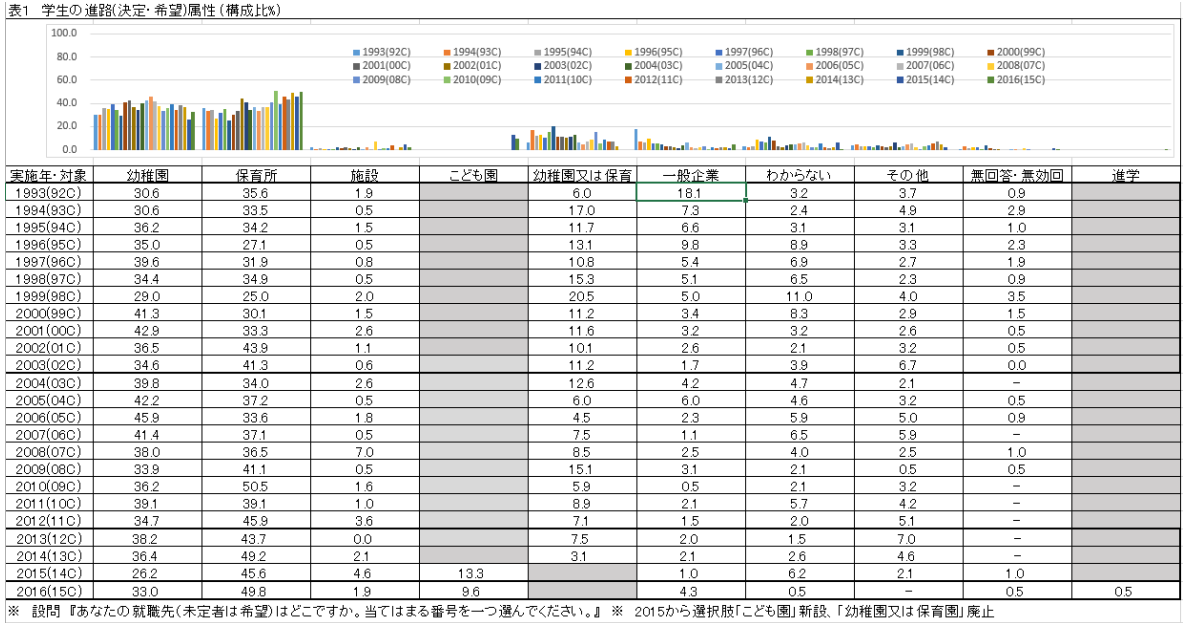
このアンケートは本学科が実施している幼稚園教育実習に関する事前・事後指導の内容と学生が体験した幼稚園教育実習の実態に関するアンケート結果(25年間約5000名、11月下旬から12月上旬及び7月実施)を紹介して、それに対する幼稚園側のお考えを御伺いして、今後の幼稚園教育実習の事前・事後指導の内容改善などに資する情報を得ることを目的としています。結果は統計的に処理して個別の幼稚園を特定することは一切ありませんので御忌憚無い御意見をお寄せください。回答は添付の回答票に記入して、内封筒に密封の上、返信用封筒にて令和2年2月29日までに御投函ください。

(アンケートに関する問い合わせ窓口 松尾智則 TEL092-851-2531(内線 351)  
E-mail:tmatsuo@nakamura-u.ac.jp



中村学園大学短期大学部  
幼児保育学科

はじめに  
表1のアンケート結果は前に記載しているように11月下旬から12月上旬の状態就職の最終ではございませんが、約四半世紀に亘りほぼ一貫して保育者(幼稚園教諭・保育士)の養成と幼稚園等への人材の供給に努めていることを示しています。また、近年幼稚園就職が若干減少しているように見えますが、福岡県下や県外の幼稚園のこども園化の影響が統計に表れていると思われるので、依然として幼稚園への人材供給に一定の役割を果たしていると考えています。このことを踏まえてアンケートへの御協力を重ねてお願い申し上げます。



## 1. 幼稚園教育実習の実習内諾依頼について

本学科では毎年教育実習実施の前年 10 月に第 1 回目のオリエンテーションを実施し、同 10 月に「前学期幼稚園教育実習内諾依頼オリエンテーション」、翌年 1 月に「後学期幼稚園教育実習内諾依頼オリエンテーション」を行い、原則として前学期幼稚園教育実習の内諾依頼のための訪問は前年 10 月末から 12 月に、後学期幼稚園教育実習の内諾依頼のための訪問は 1 月から 3 月に行うように指導しています。

本学の学生の意識は表 2 の通りです。

貴園のお考えはいかがでしょうか。

**Q1-1.** 5 月末から 6 月実施の前学期幼稚園教育実習内諾依頼の時期(前年 10 月末から 12 月)は

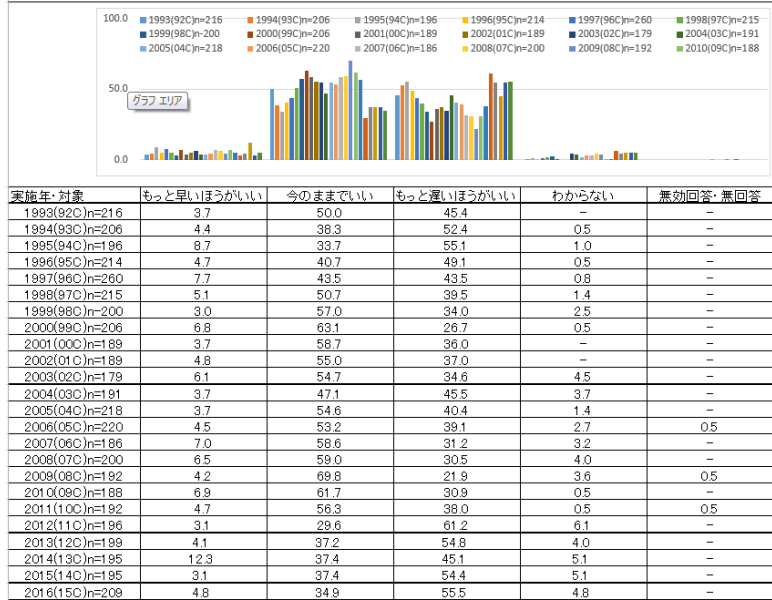
1. もう少し早いほうがいい。
2. 今のままでいい
3. もう少し遅いほうがいい
4. わからない

**Q1-2.** 10 月実施の後学期幼稚園教育実習内諾依頼の時期(1 月から 3 月)は

1. もう少し早いほうがいい。
2. 今のままでいい
3. もう少し遅いほうがいい
4. わからない

**Q1-3.** 内諾依頼訪問に関してその他、気になる点がありましたら自由にお書きください。

表2 実習園を決める時期(構成比%)



※ 設問『実習する幼稚園を決める時期についてどう思いましたか。当てはまる番号を一つ選んでください。』

## 2. 各種オリエンテーション・事前事後指導等について

本学科では全学を挙げて保育者養成に取り組んでいます。その中でも幼稚園教育実習へ向けた直接の取り組みとしては以下の事を行っています。

1. 付属幼稚園参観、付属保育園参観(1 学年前学期)
2. 付属幼稚園体験保育(半日)(1 学年夏休み期間中の 9 月)
3. 幼稚園教育実習希望調査オリエンテーション(1 学年 10 月)
4. 前学期幼稚園教育実習内諾書配布オリエンテーション(1 学年 10 月)
5. 後学期幼稚園教育実習内諾書配布オリエンテーション(1 学年 1 月)
6. 幼稚園教育実習研究(事前事後指導 15 回)(2 学年 4 月から 12 月)
7. 前学期幼稚園教育実習直前オリエンテーション(2 学年 4 月)
8. 後学期幼稚園教育実習直前オリエンテーション(2 学年 7 月)

各回の幼稚園教育実習研究(事前事後指導)の内容は表 3 の通りです。

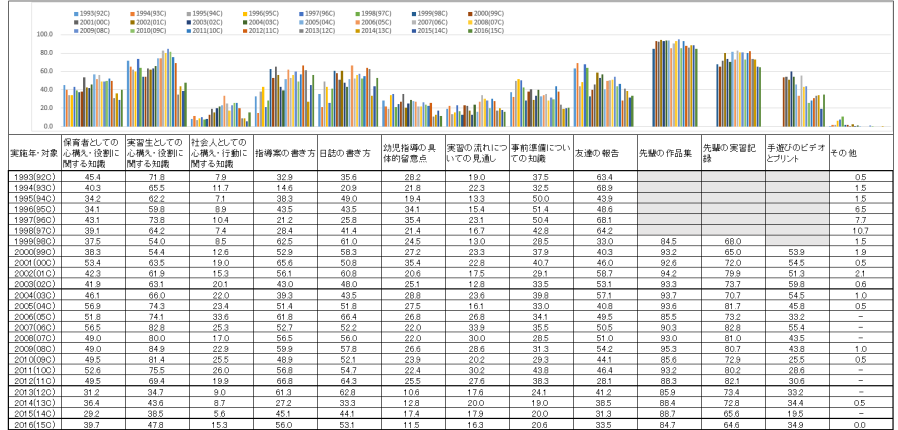
表3 幼稚園教育実習研究の内容

内容	学生による活動部分
1. ガイダンスと係決め	
2. 実習生の立場と留意点 及び幼稚園校側の服務について	学生グループによる保育実技発表
3. 実習内容の研究1 「見学」と「観察」	学生グループによる保育実技発表
4. 実習内容の研究2 「参加」と「指導」	学生グループによる保育実技発表
5. 実習日誌の研究	学生グループによる保育実技発表
6. 保育記録・指導案の研究1 理論編	学生グループによる保育実技発表
7. 保育記録・指導案の研究2 実務編	学生グループによる保育実技発表
<b>前学期幼稚園教育実習</b>	
8. 前期実習反省会	報告会の内容・形式等に関する学生の話し合い
9. 前期実習報告会 1 前半	学生による司会進行・発表
10. 前期実習報告会 2 後半	学生による司会進行・発表
11. 後期実習に向けた実習課題の検討	
<b>後学期幼稚園教育実習</b>	
12. 後期実習報告会 1 前半	学生による司会進行・発表
13. 後期実習報告会 2 後半	学生による司会進行・発表
14. 教育実習作品集作成1 原稿作成	課題製作
15. 教育実習作品集作成2 編集とまとめ	振り返り

※その他に先輩の記録の伝承のための印刷活動、クラスの自己記録の印刷活動等有り

また、事前事後指導に関する学生の評価は表 4 の通りです。

表4 幼稚園教育実習研究で役立ったこと(重複可)



※ 設問『幼稚園教育実習研究の授業の中で役に立ったのはどこですか。当てはまる番号を一つ選んでください。』

**Q2-1.** 事前事後指導内容に関してどのような項目が重要と思われるか貴園のお考えは如何でしょうか。番号をお選びください。

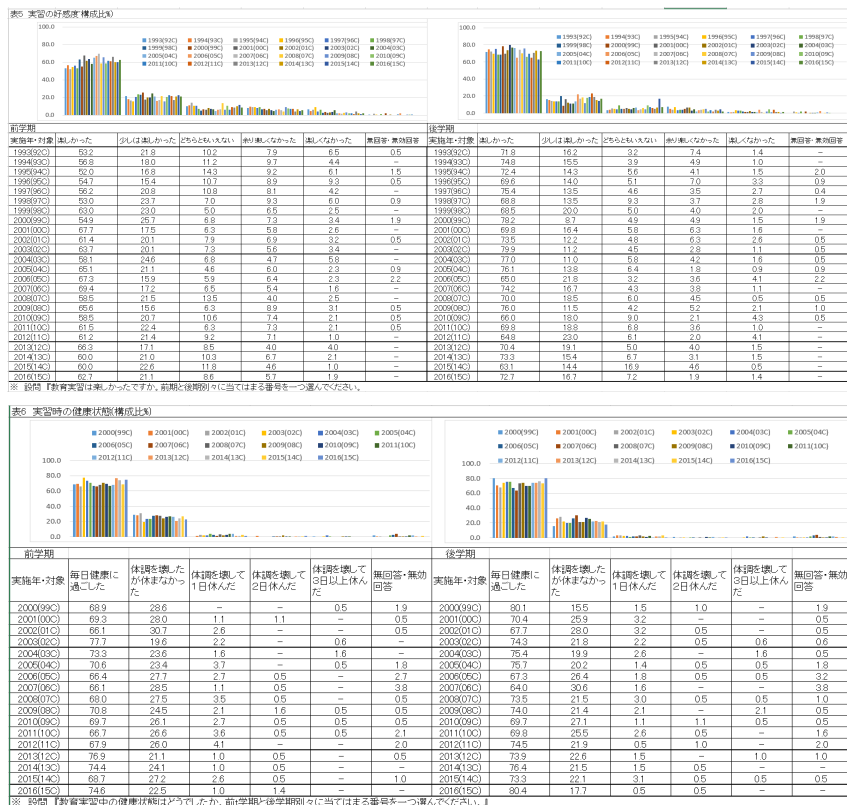
1. 保育者としての心構え・役割に関する知識	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
2. 実習生としての心構え・役割に関する知識	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
3. 社会人としての心構え・行動に関する知識	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
4. 指導案の書き方	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
5. 日誌の書き方	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
6. 幼児指導の具体的留意点	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
7. 実習の流れについての見通し	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
8. 事前準備についての知識	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
9. 友達の報告(情報の共有)	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
10. 先輩の作品集(先輩との情報共有)	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
※先輩の実習中の各種活動内容のまとめ冊子				
11.先輩の実習記録(モデル理解)	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
※保育記録・指導案等のまとめ冊子				
12.保育実技発表体験	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない

Q2-2 その他、事前事後指導の内容等について御意見が有りましたら自由にお書きください。

### 3.教育実習への適応状況について

幼稚園教育実習への適応状態を好感度と健康状態を指標として表したものが表5と表6です。

Q3. 教育実習への適応状況に関して御意見が有りましたら自由にお書きください。





## 4. 実習体験内容 1(全体)

実習体験内容の変化を示しているのが表7です。17年間で様変わりしている様子が明らかです。具体的には全日保育や半日保育体験が半減し、朝の会や帰りの会や給食指導が減少し、主活動(設定保育)が微増し、絵本読みや指遊びなどの一部の指導が突出することになっています。

表7 実習体験内容(出現率%)



実習体験内容に関してどのような項目が重要と思われるか貴園のお考えはいかがでしょう。番号をお選びください。

## Q4-1(前学期幼稚園教育実習において)

- |                      |       |          |      |             |          |
|----------------------|-------|----------|------|-------------|----------|
| 1. 全日保育              | ..... | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 2. 半日保育              | ..... | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 3. 朝の会や帰りの会の指導       | ..... | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 4. 主活動の部分だけの指導(設定保育) | ..... | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 5. 給食の指導             | ..... | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 6. 絵本読みや指遊びなど一部の指導   | ..... | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |

## Q4-2 (後前学期幼稚園教育実習において)

- |                      |       |          |      |             |          |
|----------------------|-------|----------|------|-------------|----------|
| 1. 全日保育              | ..... | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 2. 半日保育              | ..... | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 3. 朝の会や帰りの会の指導       | ..... | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 4. 主活動の部分だけの指導(設定保育) | ..... | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 5. 給食の指導             | ..... | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 6. 絵本読みや指遊びなど一部の指導   | ..... | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |

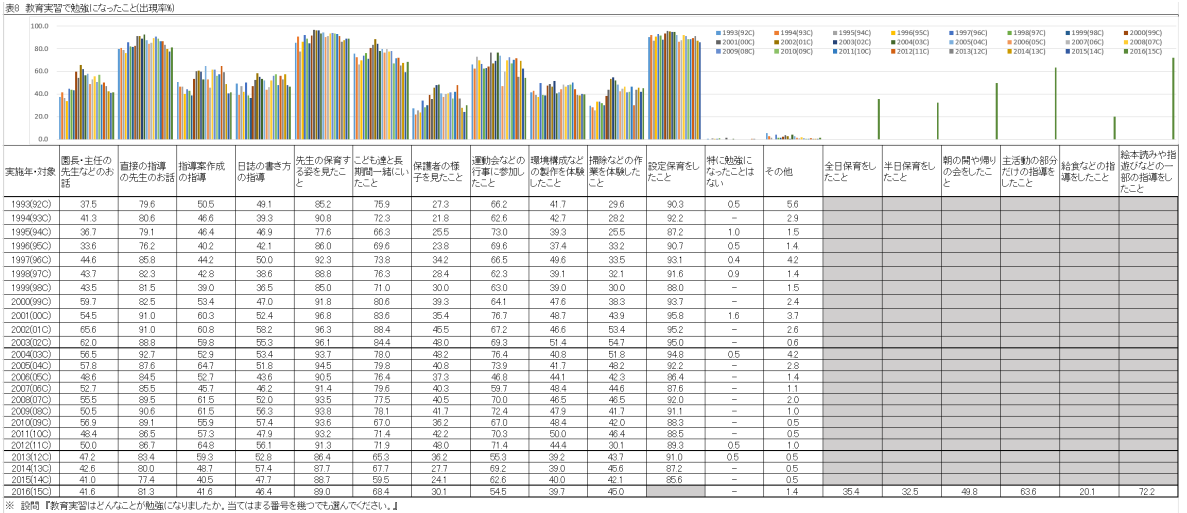
Q4-3 全日保育や半日保育が減少した理由をどのようにお考えですか。御意見が有りましたら自由にお書きください。

Q4-4 その他実習体験内容について御意見が有りましたら自由にお書きください。

5.実習体験内容 2(勉強になったこと)

学生が教育実習において勉強になったと認識している項目の変化を示しているのが表 8 です。学生の中には体験していないために評価できない項目も含まれてはいると思いますが、「園長・主任の先生などのお話」、「直接の指導の先生のお話し」「姿を見た」など受動的学習については近年明らかな減少傾向にある一方、「…した」などの能動的学習は評価を維持している傾向が見られます。また、2016 年に設定保育を分割して項目を設定した結果では「絵本読みや遊びなど一部の指導をした」「主活動の部分だけをした」が上位を占めていますが、表 7 とクロスしてみると体験した中で評価が高いのは「全日保育」「半日保育」でした。

Q5.このような状況に関して御意見が有りましたら自由にお書きください。

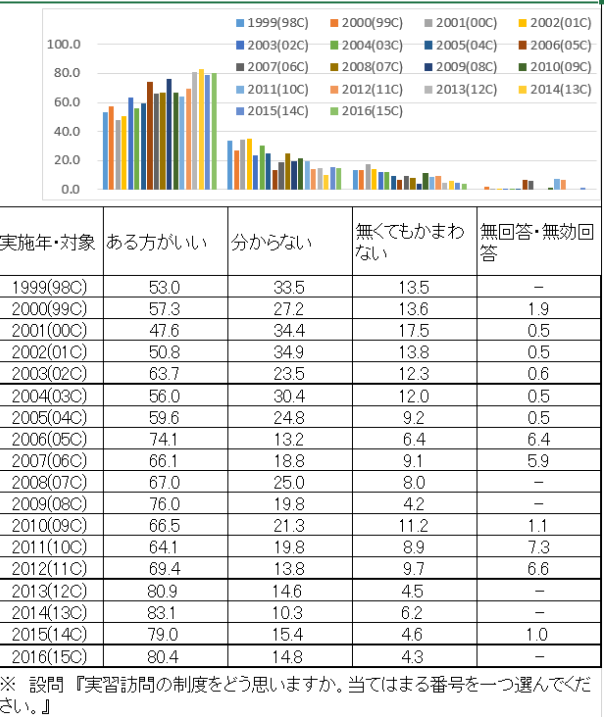


6.実習訪問について

実習中の教員による実習園訪問には各幼稚園にご配慮いただきありがとうございます。表 9 に示しますように学生の実習訪問に対する期待も高まってきています。今後も実習訪問の内容を充実していきたいと考えています。

Q6.実習訪問に関して訪問する大学教員に期待する内容や改善を望む項目など御意見が有りましたら自由にお書きください。

表9 実習訪問の必要性(構成比%)



ここからは平成 29 年度前学期の幼稚園教育実習に関するアンケート結果からご意見をお聞きます。

#### 7.実習中の登降園時間について

学生の登園時間が表 10、降園時間が表 11 です。

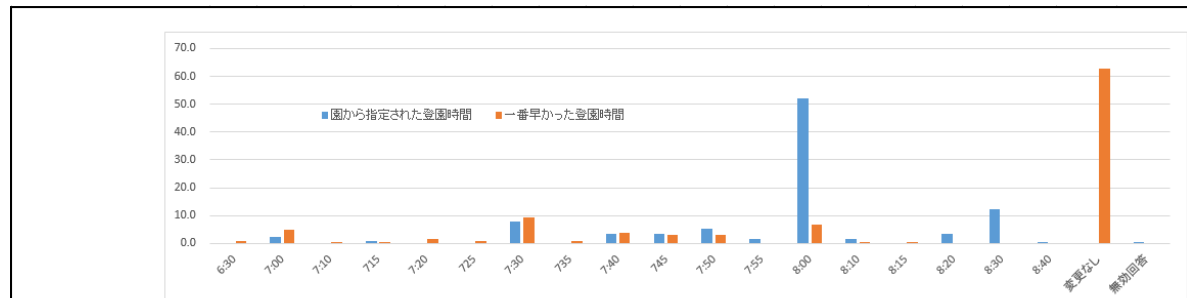


表10 登降園時間(構成比%)

時刻	6:30	7:00	7:10	7:15	7:20	7:25	7:30	7:35	7:40	7:45	7:50	7:55	8:00	8:10	8:15	8:20	8:30	8:40	変更なし	無効回答
園から指定された登園時間	—	2.5	—	1.0	—	—	7.9	—	3.4	3.4	5.4	1.5	52.2	1.5	—	3.4	12.3	0.5	—	0.5
一番早かった登園時間	1.0	4.8	0.5	0.5	1.5	1.0	9.4	1.0	3.9	3.0	3.0	—	6.9	0.5	0.5	—	—	—	62.6	—

※ 設問『実習園から指示された基本的登園時間と降園時間と実際の時間を具体的に記入してください。』

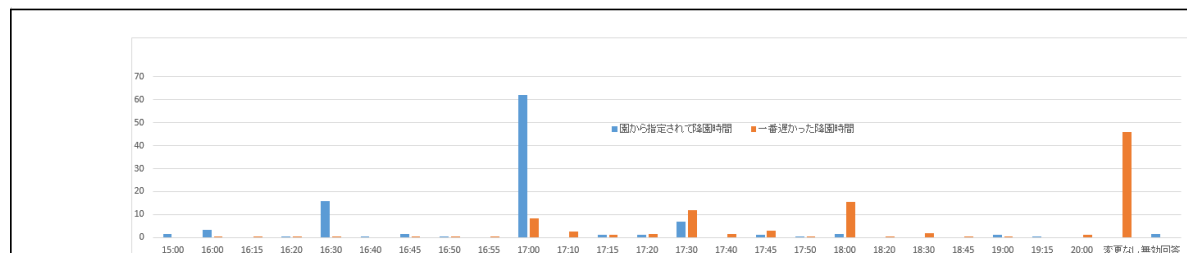


表11 降園時間(構成比%)

時刻	15:00	16:00	16:15	16:20	16:30	16:40	16:45	16:50	16:55	17:00	17:10	17:15	17:20	17:30	17:40	17:45	17:50	18:00	18:20	18:30	18:45	19:00	19:15	20:00	変更なし	無効回答
園から指定された降園時間	1.5	3.4	—	0.5	15.8	0.5	1.5	0.5	—	62.1	—	1.0	1.0	6.9	—	1.0	0.5	1.5	—	—	—	1.0	0.5	—	—	1.5
一番遅かった降園時間	—	0.5	0.5	0.5	0.5	—	0.5	0.5	0.5	8.4	2.5	1.0	1.5	11.8	1.5	3.0	0.5	15.3	0.5	2.0	0.5	0.5	—	1.0	45.8	—

Q7-1 実習中の学生の登降園時間は園の経営方針や反省会の実施状況と学生の積極的行動などによって前後することがありますが、基本的登園時間と降園時間は何時頃が望ましいとお考えでしょうか。

Q7-2 その他登降園について御意見が有りましたら自由にお書きください。

#### 8. 実習中の睡眠について

学生の睡眠時間が表 12 で、睡眠不足の認識が表 13 です。実習中是不慣れな環境での活動と日誌の作成や翌日の準備で学生には睡眠時間が不足の傾向が見られます。

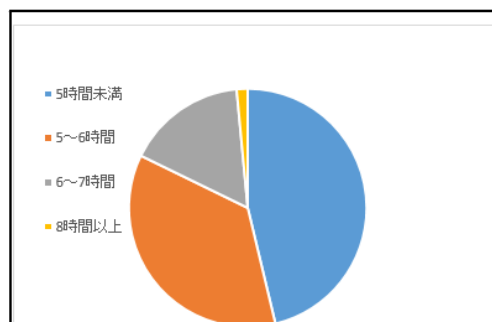


表12 睡眠時間(構成比%)

睡眠時間	5時間未満	5～6時間	6～7時間	8時間以上
睡眠時間	46.3	36.0	16.3	1.5

※ 設問『実習中の平均の睡眠時間はどれくらいでしたか。該当する番号を1つ選んでください。』

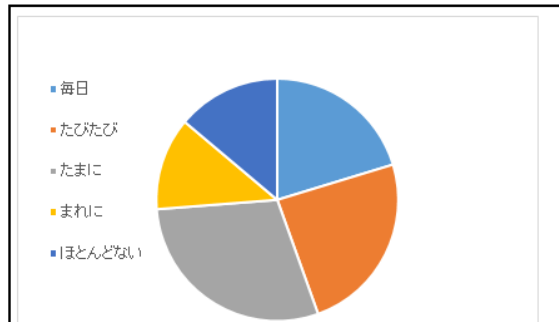


表13 睡眠不足(構成比%)

睡眠不足	毎日	たびたび	たまに	まれに	ほとんどない
睡眠不足	20.2	24.1	29.1	12.3	13.8

※ 設問『実習中に常に睡眠不足を感じましたか。該当する番号を1つ選んでください。』

Q8 睡眠時間不足に関連して御意見が有りましたら自由にお書きください。



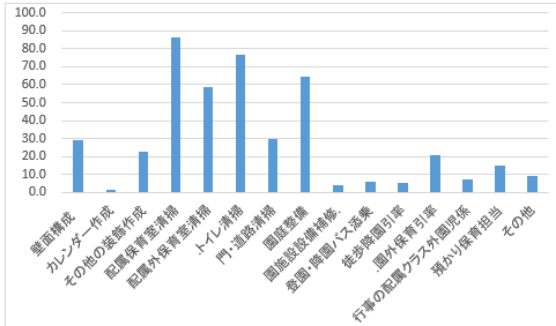
9.園務・作業等の内容について

学生が体験した園務・作業の状況が表 14 です。

**Q9-1** 園の運営方針によって実習生が体験できる園務や作業等の内容は多様なものになると思われますが、ぜひ必要とお考えになる園務・作業体験をお書きください。

**Q9-2** その他、御意見が有りましたら自由にお書きください。

表14.園務・作業等の内容(出現率%)	
内容	
壁面構成	29.1
カレンダー作成	1.5
その他の装飾作成	22.7
配属保育室清掃	86.2
配属外保育室清掃	58.6
トイレ清掃	76.4
門・道路清掃	30.0
園庭整備	64.5
園施設設備補修	4.4
登園・降園バス添乗	6.4
徒歩降園引率	5.4
園外保育引率	20.7
行事の配属クラス外園児係	7.4
預かり保育担当	15.3
その他	9.4



※設問『実習中に行った園務・作業等について該当する番号を幾つでも選んでください。』

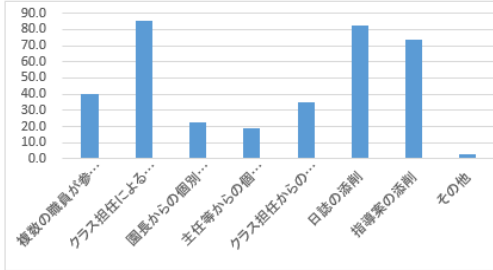
10.園から受けた指導内容

学生が受けた指導内容の状況が表 15 です。

**Q10-1** 幼稚園から受ける指導内容は各幼稚園の事情によって多様であると思われますが、ぜひ必要とお考えになる指導内容をお書きください。

**Q10-2** その他、御意見が有りましたら自由にお書きください。

表15.園から受けた指導内容(出現率%)	
内容	
複数の職員が参加した反省会	39.9
クラス担任による反省会	85.7
園長からの個別直接の口頭指導(反省会を除く)	22.2
主任等からの個別の口頭指導(反省会を除く)	19.2
クラス担任からの個別の直接の口頭指導(反省会を除く)	35.0
日誌の添削	82.3
指導案の添削	73.9
その他	3.0



※設問『幼稚園から受けた指導について該当する番号を幾つでも選んでください。』

11.実習日誌の返却について

日誌返却に関する状況が表 16 です。

**Q11-1** 実習日誌の返却は幼稚園の業務の影響もあると思われますが、どのような返却の形がいいとお考えか、自由にお書きください。

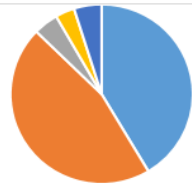
**Q11-2** 日誌添削後指導の指導についてどのようにお考えでしょうか。一つお選びください。

1. 添削に基づく削除(消去)・修正を求める。
2. 特に指導しない

表16.実習日誌の返却(構成比%)

内容	
すぐに返却された	41.4
数日後に返却された	45.8
最後にまとめて返却された	4.4
その他	3.4
無回答・無効回答	4.9

- すぐに返却された
- 数日後に返却された
- 最後にまとめて返却された
- その他
- 無回答・無効回答



※設問『園に提出した日誌・指導案の返却時期は概ねどうでしたか。該当する番号を1つ選んでください。』

**Q11-3** その他、実習日誌について御意見が有りましたら自由にお書きください。

12.フェースシート

最後に統計処理のために貴幼稚園についてお聞きします。該当する番号をそれぞれ一つお選びください。

**Q12-1** 設置者区分

1. 国公立
2. 学校法人立
3. 社会福祉法人立
4. その他

**Q12-2** 施設種別

1. 幼稚園
2. 幼稚園型認定こども園
3. 幼保連携型認定こども園

**Q12-3** 最近 5 年間の間に本学科の実習生を引き受けたことがありますか。

1. 引き受けたことがある
2. 引き受けたことはない
3. 不明

**Q12-4** (Q12-3 で 1 を選択した場合のみ御記入ください。)

本学科の教育実習学生に関して御意見・ご感想がありましたら、自由にお書きください。

御協力ありがとうございました。(回答は回答票にご記入ください。)